

映画英語教育学会 (ATEM) 東日本支部 第7回支部大会



日 時：2016年12月4日(日) 10:00 開会

会 場：麗澤大学東京研究センター

新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー4F

(新宿西口徒歩10分)

大会テーマ：『映画の名/迷台詞と映画教材』

特別講演：13:00～14:30 「通訳訓練法を取り入れた英語指導」

講師 森住 史氏 同時通訳者・成蹊大学准教授

	発表者(所属)	タイトル
10:00～10:15	開会の辞/総会 (ATEM 会員のみ)	
休憩 5分		
10:20～10:55	研究発表①延原みか子(東京都立産業技術高等専門学校) 吉牟田聡美(国際基督教大学)	『ズートピア』に描かれる多文化共生社会の問題点の考察 および教育の場(授業)への応用
10:55～11:30	②塚田三千代(翻訳家・映画アナリスト) 藤田久美子(白梅学園大学・短期大学) 清水純子(慶応大学)	映画と文化データベース — 総覧と具体例としての映画 —
11:30～12:05	③日影尚之(麗澤大学)	Jennifer Lopez and the American Dream: The Development of Her Career up to <i>Maid in Manhattan</i> (2002)
12:05～13:00	昼食	
13:00～14:30	特別講演 森住 史(成蹊大学准教授)	通訳訓練法を取り入れた英語指導
休憩 5分		
14:35～15:10	④小林敏彦(小樽商科大学)	洋画の字幕翻訳の特徴とその類型
15:10～15:45	⑤尼崎豊志夫(梅花女子大学)	人前に立たないプレゼンテーション—ストーリーテリング技法の活用
休憩 5分		
15:50～16:25	⑥藤枝善之(京都外国語大学・短期大学)	英語教育に映画字幕を活かす — 名訳と迷訳の間 —
16:25～17:00	⑦大月敦子(専修大学)	小学校英語のための「動詞キーワード」英会話練習法:「動詞キーワード」としての「Be 動詞」を映画英語の台詞から考える
17:00～17:35	⑧渡邊信(麗澤大学)	Vocal fry, uptalk and a conversational filler <i>like</i> : a discussion on vocal trends based on Quenqua, D. (2012)
17:35～17:40	閉会の辞	

敬称略

参加費：無料/懇親会：18:00～20:00 @CHINADOLL 新宿アイランドタワー店(参加費 4,000円、受付時)

ei-seminar@atem.org <http://www.atem.org/higashinihon>

「通訳訓練法を取り入れた英語指導」

森住 史

同時通訳者・成蹊大学准教授

英語運用能力を向上させる手段のひとつとして通訳学校に通うことにした私自身の学習体験とその後のティーチングの経験からお話しをします。

通訳の訓練方法は、英語力を向上させるためだけのものではありません。しかし、日英・英日の通訳をする際に L2 であり **passive language** でもある英語の力を伸ばす側面はやはり大きいでしょう。学習者にとっては、自らの英語力を向上させるために自学自習の方法として知っているのと役に立つものです。同時に、英語を教える立場としても、学習者の弱点を見極めたり英語力を伸ばしたりするために、普通の授業に取り入れられそうなやり方がいくつかあります。通訳学校での訓練方法をすべてご紹介できればとは思いますが、時間の都合上、いくつかに限ってご紹介します。パラフレーズ、リテンション&リプロダクション (ある程度の英語を聞いて繰り返す)、ノート・テイキングと脱言語化について、そして最後に実際の逐次通訳練習を中心に、それぞれのエクササイズの種類と実施方法について説明をしたあと、参加者のみなさんには実際にその場で体験していただきます。

設備やクラスのサイズ、生徒・学生の英語のレベルによっては、それなりの工夫が必要かもしれませんが、なにか新しい指導方法として取り入れられそう、と提供いただければ幸いです。

プロフィール

成蹊大学文学部英米文学科准教授。専門は社会言語学。最近の関心は特に EMI (English medium instruction) と言語政策としての英語教育。国際基督教大学教養学部語学専攻 (BA)、国際基督教大学大学院教育学研究科博士課程前期・後期 (MA. & Ph. D.)。ロンドン大学 (学部) に一年、エディンバラ大学 (博士課程後期) に一年の留学。2005 年 4 月よりサイマル・アカデミーで通訳者養成コース講師をつとめ、同時に会議通訳者としてのキャリアもスタート。2011 年度後期の NHK ラジオ講座「入門ビジネス英語」では、英文 E メールの書き方についてテキスト執筆およびラジオ放送講師をつとめる。2012 年 4 月から隔週で執筆している Asahi Weekly のコラム『英語の Q&A』では、受験英文法の確認から気をつけたいエチケット、語彙を増やす方法まで幅広いトピックを扱っており、すでに 5 年目に突入。

著書

<共著>

2009 年 7 月 「通訳訓練法を取り入れた指導」『英語教育にスパイスを！教員免許更新教習に向けて』共著 pp. 53-71.

2014 年 3 月 「通訳者とコミュニケーション」 『成蹊大学文学部紀要』 pp. 87-102. 他。

<単著>

2012 年 7 月 『英文メールの A to Z フォーマル表現からフレンドリーなひと言まで』NHK 出版. 他。

映画英語教育学会(ATEM)東日本支部 第7回大会プログラム

日 時：2016年12月4日(日) 10:00 開会

会 場：麗澤大学東京研究センター

新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー4F

(新宿西口徒歩 10分)

大会テーマ：『映画の名/迷台詞と映画教材』

【開会の辞／総会】10:00～10:15(ATEM 会員のみ)

【特別講演】13:00～14:30

講師：森住 史（同時通訳者・成蹊大学准教授）

「通訳訓練法を取り入れた英語指導」

英語運用能力を向上させる手段のひとつとして通訳学校に通うことにした私自身の学習体験とその後のティーチングの経験からお話しをします。

通訳の訓練方法は、英語力を向上させるためだけのものではありません。しかし、日英・英日の通訳をする際に L2 であり *passive language* でもある英語の力を伸ばす側面はやはり大きいでしょう。学習者にとっては、自らの英語力を向上させるために自学自習の方法として知っているのと役に立つものです。同時に、英語を教える立場としても、学習者の弱点を見極めたり英語力を伸ばしたりするために、普通の授業に取り入れられそうなやり方がいくつかあります。通訳学校での訓練方法をすべてご紹介できればとは思いますが、時間の都合上、いくつかに限ってご紹介します。パラフレーズ、リテンション&リプロダクション（ある程度の英語を聞いて繰り返す）、ノート・テイキングと脱言語化について、そして最後に実際の逐次通訳練習を中心に、それぞれのエクササイズの狙いと実施方法について説明をしたあと、参加者のみなさんには実際にその場で体験していただきます。

設備やクラスのサイズ、生徒・学生の英語のレベルによっては、それなりの工夫が必要かもしれませんが、なにか新しい指導方法として取り入れられそう、とさせていただければ幸いです。

【研究発表】10:20～12:05, 14:35～17:35

1. 延原みか子(東京都立産業技術高等専門学校), 吉牟田聡美(国際基督教大学): 「『ズートピア』に描かれる多文化共生社会の問題点の考察および教育の場(授業)への応用」

『ズートピア』は、異なる民族がいかにかに調和し共生すべきかという現代アメリカの抱える社会問題を扱っている。” Zootopia ” は、Zoo と Utopia をかけ合わせた造語であり、このタイトルから

もわかるように、この作品は異なる種族が共存できるユートピアとは何かを問うている。それと同時に、社会は不完全であるが全員のニーズを満たすのは不可能であり、その前提でお互い理解し妥協点を見つけていこうという（現実受容的な）メッセージをほのめかしている。その点において既存のディズニー映画とは全く異なる新しい試みである。

本発表では、Intercultural competence を高める目的において『ズートピア』を外国語教育の場で、また授業でどのように扱うか、例としていくつかの場面を取り上げ、論じたい。

2. 塚田三千代(翻訳家・映画アナリスト), 藤田久美子(白梅学園大学・短期大学),

清水純子(慶応義塾大学): 「映画と文化データベース — 総覧と具体例としての映画 —」

現代社会が急速にグローバル化してゆく社会情勢の下で、外国語（英語）習得とその実用的運用を経済・産業界や医療・介護現場からも強く求められている。そのためには習得方法のイノベーションが急務であり、その一策は洋画の導入と活用である。我々教師は研究を重ねて今日までに、セリフのみならず文化内容も重視して外国映画の材料整備と教育実践に必要な事項を映画と文化データベース (MCDB) に蓄積してきた。

今回は、「総覧」の概要&定義と具体的な映画例を、3人が担当して発表する。

- ① 総覧：『天使と悪魔』の概要&定義 塚田三千代
- ② 『フランス組曲』の文学的アプローチ 藤田久美子
- ③ 『サンタサングレ』の文化的視点 清水 純子

3. Hisayuki Hikage (Reitaku University): “Jennifer Lopez and the American Dream: The Development of Her Career up to *Maid in Manhattan* (2002)”

Jennifer Lopez (1969-), one of the most successful Latina stars in America, was born in the Bronx, New York. The title role of Gregory Nava’s film *Selena* (1997), which depicts the legendary Tejana singer, was very important for Lopez’s acting (and music) career. However, Lopez’s promotion strategy shifted from what Mary C. Beltrán (2009) calls “cultural authenticity” in order to market herself to non-Latino audiences. As Priscilla. P. Ovalle (2008) points out, overtly Latina characters/names gradually disappeared from her films and her appearance changed to conform to “the idealized notions of screen beauty” (assimilation). Lopez’s romantic comedy, *Maid in Manhattan* (2002) develops around the mistaken identity of her character named Marisa, a Latina single mother who works as a maid in a high-class New York hotel. Her passing as a white socialite wearing the Dolce & Gabbana suit and her “transformation” for the Cinderella ball blur the line between Lopez’s character and Lopez as a celebrity. How should we interpret Marisa’s upward mobility (promotion to management and social rise for the second generation of immigrants) in relation to the American Dream? What does Lopez’s career suggest in terms of Latina/o opportunity and status in Hollywood and the United States?

4. 小林敏彦(小樽商科大学・大学院): 「洋画の字幕翻訳の特徴とその類型」

洋画を活用して授業する場合、字幕の存在は無視できないものであり、その活用を論じる以前に教える側が字幕自体の本質を見極め、承知していることが望ましい。本研究は、35本の洋画ビデオに現われる字幕を分析の対象とし、英語の台詞と日本語の字幕の比較を行い字幕翻訳の特徴を探り、類型化を試みた。まず字幕が原文の台詞の内容をどのくらい忠実に伝えているかに着目し、伝達情報量の増減で大別し、更に性質に応じて細分化した結果、18の類型が特定できた。字幕スペー

スの制約から原文の情報が減じた“REDUCTION”だけではなく、明瞭化のために情報を付加した“ADDITION”の例も見つかった。字幕の本質を実証的に分析し原文の英文と日本語字幕との比較を行い、その特徴に応じて類型化を試みることによって、学習者及び教育者の双方にとって有益な資料を提供することが本研究の目的である。

5. 尼崎豊志夫(梅花女子大学):「人前に立たないプレゼンテーション—ストーリーテリング技法の活用」

学生たちが行うプレゼンテーションは、①パワーポイントを使い、②ほかの学生の前で、③スライドに合わせて原稿を読み上げるスタイルが一般的であり、まず人前で話すというハードルを乗り越えさせる手段が必要である。

本発表では、ストーリーテリングの技法を利用し、静止画・動画・音声データを組み合わせてスライドムービーを作成し、人前に立たないプレゼンテーション方法を提示する。

今回の発表には、昨年度に行われた海外研修の成果を発表することを目的としたプロジェクトチームを組み、チーム内での協働学習を通して、無料ソフトのMovie Makerを利用してスライドムービーの制作を課した。

アウトプットを念頭に置いたメディア活用という点を考えれば、スライドムービーによる発表は情緒フィルターを低くすることが可能であり、協働学習を利用すれば、チーム内での協力や意見交換などを通して学生間のコミュニケーション能力の向上も図ることができる。

6. 藤枝善之(京都外国語大学・短期大学):「英語教育に映画字幕を活かす —名訳と迷訳の間—」

映画字幕は日本で特に発達した文化だと言われているが、英語教師にとって英語台詞の日本語字幕は、優れた授業教材を提供してくれる宝の山である。この発表では、『羊たちの沈黙』の“I have no plans to call on you.”の<迷訳>を始め、『ゴースト ニューヨークの幻』の“The love inside, you take it with you.”、その他から採った字幕を材料として、英語の授業における字幕の使い方やその英語学的なポイントについて考察する。

7. 大月敦子(専修大学):「小学校英語のための『動詞キーワード』英会話練習法:『動詞キーワード』としての『Be 動詞』を映画英語の台詞から考える」

本研究は、従来の暗記学習法の選択的代替学習法として、自律的英会話基礎力の習得を目指した「思考型英会話学習法」の研究開発を行っており、小学校児童の学習負荷軽減を目指した“動詞キーワード”を用いた「思考型英会話学習法」の教授法・教材の開発を行っている。「動詞」が文の統語・意味の生成に大きな役割を担っていること、そしてそれを裏付ける英文スピーチ実験調査・実践授業の分析を示しながら、現在研究課題となっている「動詞キーワード」としての「Be 動詞」のあり方と使用法について報告する。この「Be 動詞」についての課題解決のために本発表では、映画の中での児童の発話に着目しており、特に「Be 動詞」の言語理論的説明・「Be 動詞」を中心とした映画台詞の語句のデータを基に、分析と考察を行う。

8. Shin Watanabe (Reitaku University): “Vocal fry, uptalk and a conversational filler *like*: a discussion on vocal trends based on Quenqua, D. (2012)”

In this presentation, I discuss three vocal trends (uptalk, vocal fry and a conversational filler *like*) based on Quenqua (2012), a The New York Times article entitled "They're, Like, Way Ahead of the Linguistic Currrrve." These linguistic features are demonstrated using Moon Zappa (1982)'s *Valley Girl*, a trailer of *Keeping up with the Kardhashians*, actor Ashton Kutcher's interview in Chelsea (2016) and U.S. President George W. Bush's speech in 2005. I will show that young female speakers are incubators of linguistic innovations and their creations go up into more general vernaculars in both genders across age ranges.

参加費：無料

懇親会：18:00～20:00 @ CHINADOLL 新宿アイランドタワー店（参加費 4,000 円は受付時にお支払ください。）

問い合わせ：ej-seminar@atem.org

<http://www.atem.org/higashinohon>

映画英語教育学会 (ATEM) 東日本支部
大会運営委員会